

**平成27年度 北海道立生涯学習推進センター研修事業
生涯学習推進基本講座【道央会場】事業報告**

I 事業の概要

研修テーマ 現代的な課題や地域課題等に対応した生涯学習・社会教育の推進について
～ 行政間連携と地域住民との協働に向けた方策について ～

- 1 趣 旨 人づくりと地域づくりに資する生涯学習を推進するための体制整備を図るため、行政間連携や地域住民との協働による学習機会の提供、学習の場の確保について、基本的・実務的な知識の習得と、各市町村の取組を踏まえた協議による地域課題解決のための方策を見出すことで社会教育の推進に向けた取組についての理解を深める。
- 2 主 催 北海道立生涯学習推進センター
北海道社会教育主事会協議会（後志管内社会教育主事会）
後志管内市町村教育委員会協議会
- 3 協 力 北海道教育庁後志教育局
- 4 期 日 平成27年11月12日（木）～13（金）
- 5 会 場 後志教育研修センター（虻田郡倶知安町南3条東4丁目）
- 6 参加対象 市町村・市町村教育委員会職員、各種審議会委員（社会教育委員、生涯学習審議会委員など）、生涯学習関連施設（児童館、勤労青少年センターなど）職員、青少年教育施設職員等
- 7 参加状況 30名（社会教育関係職員 23名、社会教育関係職員以外 7名）

8 日 程

		12:30	13:00	13:30	15:00	17:00
11 / 12		受付	開会 導入 説明	講 義 (地域社会との連携に基づく 社会教育事業の開発と実践)	研究協議① (広域的な学習機会の提供の 仕組みについて考える)	個別 相談

	9:00	11:30	12:00	12:10
11 / 13	研究協議② (広域的な学習機会の提供の 仕組みについて考える)	情報 提供	閉 会	

※ 個別相談について（希望制）
推進センター職員が、市町村の生涯学習・社会教育の推進に関わる中・長期計画策定等の個別相談に応じた。

9 活動の概要

- (1) 説明「本道の生涯学習・社会教育の推進に向けた取組の方向性」
【講師】 北海道立生涯学習推進センター主査 會田大祐
【内容】 生涯学習・社会教育の推進の方向性について、国の指針や北海道総合教育大綱を基に確認するとともに、第3次北海道生涯学習推進基本構想で、地域づくりや地域の担い手づくりに関わる学習機会の提供や学習の場の確保について説明した。

説明の様子



- (2) 講義「地域社会との連携に基づく社会教育事業の開発と実践」
【講師】 北海道大学高等教育推進機構地域社会連携担当教授 木村純氏
 「地方創生」に向けた社会教育の課題にふれながら、社会教育行政の意義や、地域の問題を住民自治的に解決する「しくみ」について説明するとともに、自身が関わった取組を事例に、連携・協働の在り方について示唆した。

講義の様子



- (3) 研究協議①「地域の存続に向けて自分たちができることを考える」
【ファシリテーター】 北海道立生涯学習推進センター主査 會田大祐
【内容】 「人口減少問題」「持続可能な地域づくり」を視点に、自分のまちの学習機会や学習の場について整理するとともに、広域・拡充の観点から必要なことは何かを協議した。

研究協議の様子



- 研究協議②「地域の存続に向けた取組とそれを進めるための方策の検討」
【ファシリテーター】 北海道立生涯学習推進センター主査 會田大祐
【内容】 広域・拡充を視点とした学習機会の提供と学習の場の確保に向けた取組計画を立てるために、実現の可能性のあることや課題を、「連携」「協働」「広域」「学習の場」を観点に整理した。

情報提供の様子



- (4) 情報提供
【情報提供者】 国立大雪青少年交流の家企画指導専門職 一関真希夫氏
【内容】 「体験の風をおこそう」の取組について説明
【情報提供者】 後志教育局教育支援課社会教育指導班主査 木幡淳史
【内容】 道教委の推進する事業について説明

個別相談の様子



- (5) 個別相談（希望制）
【対応】 北海道立生涯学習推進センター 主査 會田大祐
 " 社会教育主事 吉光寺勝己
【内容】

小樽市	長期の社会教育計画策定の手順等について
喜茂別町	読書活動推進計画の策定について
寿都町	社会教育中期計画の策定と評価について
倶知安町	事業計画等の評価について

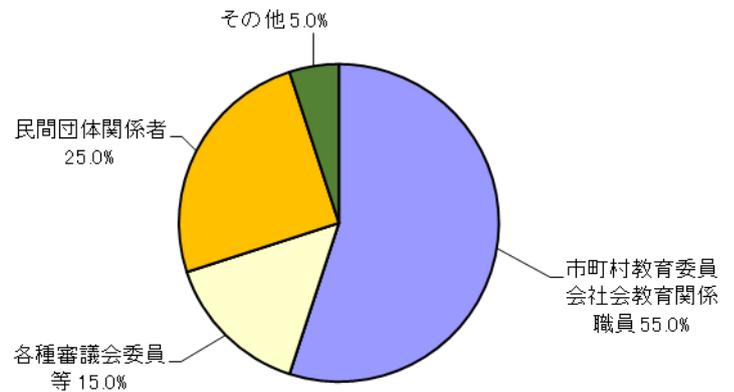
Ⅱ 事業の満足度

1 本講座参加者数 31名

(内訳) 社会教育関係職員の参加者数 24名(77.4%)
社会教育関係職員以外の参加者数 7名(22.6%)

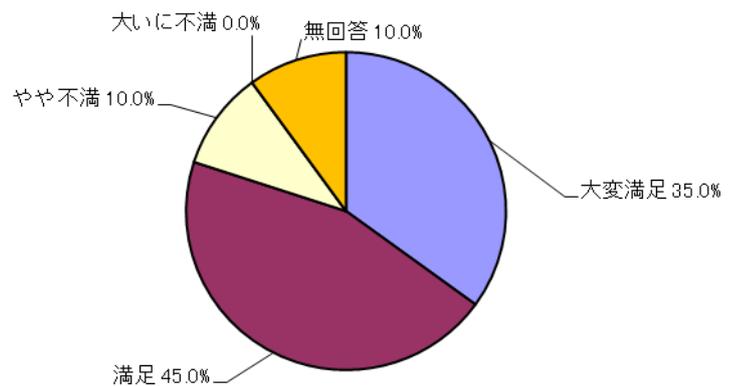
2 アンケート対象者数 31名 回答者数 20名 (回収率 64.5%)

参加者(所属)状況



3 講座全体をとおして

総合満足度	大変満足・満足 80.0%
-------	------------------

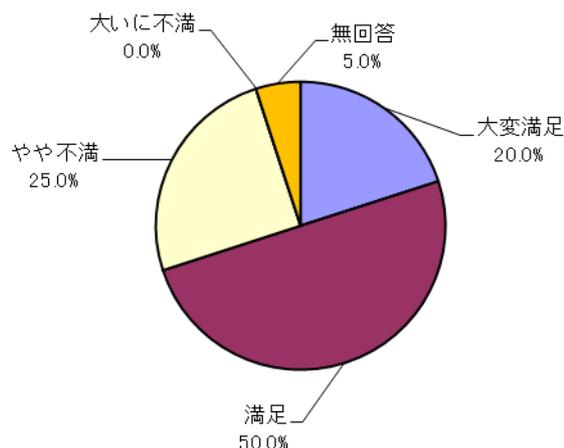


【参加者の主な声】

- 各市町村の取組や課題を知ることができた。
- 他市町村との情報交流を図ることができた。
- ワークショップの進め方の手法を学ぶことができた。
- 社会教育について、改めて考えたり交流することができた。
- 日常的にワークショップ等での話し合いや発表の場がないので、貴重な機会となった。
- 事例に基づく講義で、理解しやすかった。
- 内容に対して、時間が足りないと感じた。
- 社会教育に求められるものが広範に及び、捉えきれなかった。

4 研修プログラムの内容について

(1) 講義「地域社会との連携に基づく社会教育事業の開発と実践」

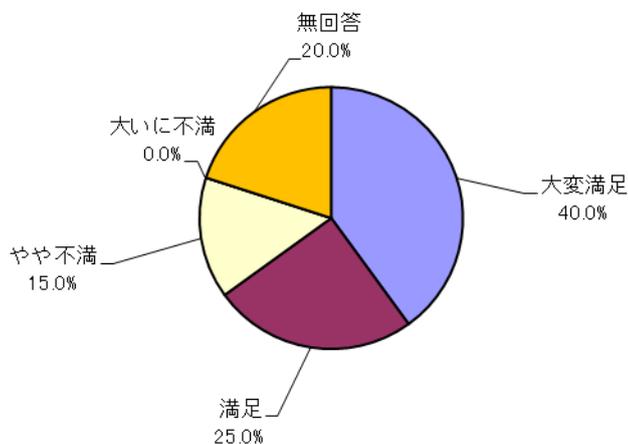


【参加者の主な声】

- 「郷土愛」の大切さが確認できた。
- 実践可能な材料が明確になった。
- 社会教育委員の役割が理解できた。
- 当事者として話ができる内容だったので良かった。
- 主体となるべき「人」を育てることの大切さが理解できた。
- 扱う事柄が多く、捉えにくかった。

(2) 研究協議①「地域の存続に向けて自分たちができることを考える」

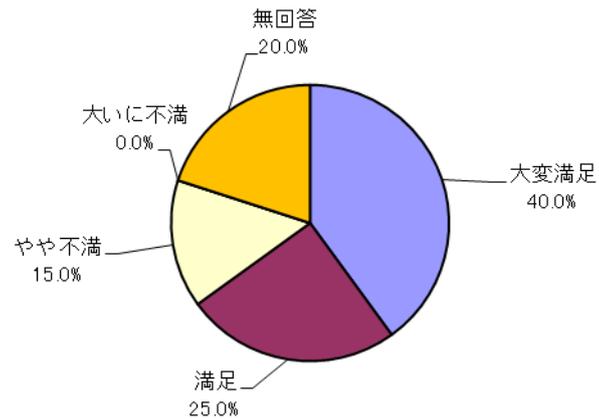
②「地域の存続に向けた取組とそれを進めるための方策の検討」



【参加者の主な声】

- グループ討議の中で、気付かされた部分があった。
- 共通認識を持ちながら、活発な協議ができた。
- 地元の事業を見直す良いきっかけとなった。
- 社会教育の範囲で実現可能だと感じる事ができた。
- グループ間交流で課題や意見を出し合うことができて良かった。
- マンダラートの使い方が参考になった。
- 難しい内容であるにもかかわらず、気付かされるところがあった。
- 自身の業務を振り返る機会となった。
- 物事を発表する流れをつかむことができた。
- まとめづらいテーマだった。

5 研修講座の運営について



【参加者の主な声】

- 様々な配慮が温かかった。
- 地元に戻って活用できるアイデアが提案されていた。
- 楽しくかつ学びになる運営方法に触れることができた。

6 その他、本講座をとおして気づいた点

【参加者の主な声】

- グループワークの手法等が参考になった。
- 他市町村の担当者間で話ができ良かった。
- 広域、拡充の視点が難しかった。

7 今後の要望等

【参加者の主な声】

- ・今後も、課題解決に向けてのワークショップを希望する。
- ・学校教育と社会教育双方の理解を深めるための合同研修会があると良い。